

総務委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

会員へのサービス向上のためのシステムや企画の立案を通して、会員の円滑な学会活動、学術活動を推進し、学会全体の活動性を向上させる。

II. 活動計画（簡条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1.各種細則の修正（年齢，任期など）
- 2.学会所有著作物に対する使用に関するシステム構築と許認可
- 3.日本医学会，厚労省などの諸団体からの周知依頼やお知らせなどの学会員への周知
- 4.役員や評議員（新規，更新）申請に関わる疑義への対応

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

0回

財務委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

学会の収入と支出を逐次把握し問題点があれば理事会に報告する。支出に関しては大きくは各種委員会・セミナー関連の前もって予測できる支出と単発で発生する支出がある。前者は毎年年末に一度、後者は逐次審議を行う。審議結果は理事会に諮り決定を仰ぐ。

II. 活動計画（簡条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 学会収支状況の確認と支出項目に関する月に1度の定例審議および緊急を要する場合の臨時審議を、ウェブまたはメール会議形式で行う
2. 委員会/セミナー予算審議

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

12回

委員会あり方検討委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

各委員会の修正事業計画、次年度事業計画および活動中間報告、活動年間報告（年報用）、委員交代および新規委員募集の有無およびこれらの状況を掌握し、その活動を支援する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1 各委員会が提出する、修正事業計画（4月の年度初め：前年度提出された事業計画を修正する場合）、次年度事業計画（秋：予算審議時期）および活動中間報告（秋）、活動年間報告（12月から翌年1月：年報用）の内容を掌握し、必要に応じたフィードバックを行う。
- 2 各委員会の委員交代および新規委員募集の有無を掌握し、必要に応じたフィードバックを行う。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

支部あり方検討委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

支部の運営を円滑に進める。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 支部の運営に関して問題が起きた場合は速やかに対応する。
2. 必要に応じてメール審議やWeb会議を開催する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

1回

学術集会あり方検討委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

総会・支部会を含めた演題登録システムを構築し、学術集会の質を担保できるシステムを作り上げる。
基盤システムと連携した演題登録・査読システムの構築。学術集会関連アンケートの実施と改修。

II. 活動計画（簡条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 総会・支部会を含めた演題登録システムの構築: 会員管理基盤システムと連携しながら①キーワードによる登録システム②査読結果feedbackシステムを必須項目として開発を行う。
2. 学術集会後のアンケート: 毎年行われている学術集会後のアンケートを行う。アンケート結果を基に学術集会の振り返りを行い、次回以降の学術集会の運営改善につなげる。
3. 学術集会運営要項の改変: これまでに蓄積されてきた学術集会に関連するルールを明文化し、運営要項として制定する。著作権や倫理規定に関しても新しい項目を制定していく。必要な項目を改修していく。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

12回

集中治療医学会基盤システム構築委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

会員管理システムの再構築、セミナー管理システムおよび学術集会演題登録・査読システムのほか、集中治療専門医・施設、集中治療認証看護師、集中治療専門臨床工学技士などの各種認証・認定制度への対応を見据え、学会基盤システムとしてのプラットフォーム作りを行う。

II. 活動計画（簡条書により、簡潔な説明を記入すること）

理事会および関連委員会と緊密に連携をし、必要仕様を整える。第1期基盤システムの稼働、第2期の要件定義の決定及び稼働。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

10回

ブランディング委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 集中治療の認知度を向上する。
2. 既存会員の集中治療医学会への求心力を高める。
3. ブランディングをすることで新規会員の増加に繋げる。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1.SNS 発信をルール化し、定期的な発信を心がける
2023年4月からWGを新たに再構築し、SNSの定期的な発信を行っていく。
- 2.HPの内容の整理・新規コンテンツ掲載を行う。
2023年4月からWGを新たに再構築し、HPの定期的なパトロールと充実を図る。アクセス数の確認を行い、コンテンツ毎のアクセス数の評価を行う。
- 3.各委員会と連携して、委員会ページのアップデートを行う。
各委員会の担当者と連携を取り、発信したい情報の整理をする。
- 4.学術集会・支部学術集会・セミナー等の開催記事を定期的に行う。
統一されたフォーマットを用いて支部学術集会の開催概要のレポートを作成してもらい、開催した内容の発信を行う。
- 5.集中治療のブランディングに繋がるコンテンツ作成を行う。
集中治療のブランディング向上に繋がるコンテンツを幾つか作成する。
- 6.集中治療の日（2月9日）に向けた企画立案をする。
2月9日に向けて集中治療を発信する企画を立案して、制作に取り掛かる。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

週次の定例会を行う。毎週火曜日 11:30~12:00を定例とする。

国際交流委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 協定アジア諸国[KSCCM, TSCCM(Thai), TSCCM/TSECCM(Taiwan)]と連携して、集中治療医学の進歩と発展を追求するとともに、協定アジア諸国間の集中治療医の相互理解を深める。
2. 多国間交流の起点として、多国間シンポジウムを企画、実行する。
3. ESICM, SCCM, ANZICSなどの欧米集中治療学会とビジネスMeetingを行う。
4. 日本集中治療医学会50周年記念yearにおける国際カンファランス開催の準備を行う。
5. 国際学術団体からの学術的な情報を学会員に提供する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. SCCM/ESICM/KSCCM/TSCCMとの定期的なビジネスミーティング開催の準備をする。
議題の準備、お土産の準備、参加者の確認
2. 協定アジア諸国とのジョイントコンGRESSを大会長・理事長と協議の上、運営、開催の支援をする。
2023年度:2023年4月KSCCM（韓国）とのJoint開催（韓国がホスト）
2023年7月TSCCM（タイ）とのJoint開催（タイがホスト）
2023年10月TSCCM/TSECCM(Taiwan)とのJoint開催（台湾がホスト）
2024年3月KSCCMとのJoint開催、TSCCM/TSECCM(Taiwan)とのJoint開催（いずれも日本がホスト）の準備を行う。
2024年3月の学術集会では、2020年に開催できなかったKSCCM-JSICM20周年記念のセレモニーを行う。
3. 日本集中治療医学会50周年記念yearにおける国際カンファランス開催の準備を行う。
EAST ASIA Day（韓国、台湾、シンガポール、タイ）
Europe Day（ESICM）
North America Day（SCCM、カナダ）
Oceania Day（ANZICS）
4. 国際交流に関するホームページ掲載内容をアップデートする。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

50周年記念事業準備委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

日本集中治療医学会 50 周年 Year （第50回学術集会2023.3.2-4 京都 ～ 第51回学術集会2024.3.14-16札幌）のイベントを企画する

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1 サマーキャンプ in NISEKO（2023.8.25-8.26）を企画する
- 2 国際デー(North America Week, Europe Week, Oceania Week, ASIA Day)を企画する
- 3 他学会とのジョイントセッションを企画する
- 4 北海道臨床工学技士会「臨床集中治療セミナー」合同企画案を検討する
- 5 モニュメント2023として募集し51回学術集会で受賞作品を表彰する
- 6 M3動画配信を企画する
- 7 50周年ロゴバッチを作成する
- 8 HPの50周年記念ページ内協賛バナーを募集する
- 9 日本集中治療医学会雑誌50年特集号を企画する
- 10 50周年記念式典を企画する
- 11 50周年記念誌を企画する

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

12回

集中治療医療提供体制改革検討委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

適切な集中治療医療提供体制の構築に必要な要素についての現状解析と将来展望について取りまとめる。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

日本医学会連合による厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）「新型コロナウイルス感染症による他疾患を含めた医療・医学に与えた影響の解明に向けた研究」臨床外科グループ、および令和5年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）集中治療医療の適正な提供を行う体制確立のための研究、を遂行する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

社会保険対策委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 診療報酬改定に向けて、本学会の要望を実現するよう活動する。
2. 診療報酬改定を受けて、円滑な運用を支援するよう活動する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 2024年度診療報酬改定に向けた活動
外保連、内保連、厚労省直接要望等を通じた活動を行う
①評議員・委員会アンケートに基づき要望ごとにタスクフォースを設立し稟議を行う
②要請共同提出など他学会からの要望に対応する
2. 2022年度診療報酬改定を受けた活動
改定内容の実施支援のための活動
3. その他
学術集会における委員会関連活動

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

10回

薬事・規格・安全対策委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 集中治療タスクシェアに関する安全指針の作成
2. 集中治療室における転倒・転落発生の防止に向けた対策の実状を把握する

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 集中治療タスクシェアに関する安全指針を確定する
2. 集中治療室における転倒・転落事例発生状況と、発生防止に向けた対策を把握する目的でアンケート調査を行う

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

臨床倫理委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

わが国の集中治療・救急領域での緩和ケアの充実をはかり、「集中治療が苦痛に満ちた治療で、ほとんどが延命治療になる」という誤解を解く。また、適切な時期に治療を中止することができることも説き、「中止できないから始めない」という態度をあらためることを促す。これを、良好な患者－医療者関係を築き、患者の生命を支えよりよい人生（それが終末期であっても）送ってもらうという医療の使命を果たすための礎とする。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 集中治療・救急領域の緩和ケアガイドラインの作成，集中治療の実状を知ってもらうための声明。
わが国の集中治療・救急領域の緩和ケアのガイドライン作成を目指す。日本緩和ケア学会，日本救急医学会との協働もはかる。
集中治療＝延命治療と誤解している一般の方へ向けて，誤解を解くための声明を発表する。
2. 臨床倫理セミナーの開催
集中治療と臨床倫理・法的・社会的問題ELSIへの対応，患者家族のこころのケアセミナーの開催
3. 看護教育委員会の意思決定セミナーとの整合
上記2セミナーと，看護教育委員会が企画している意思決定セミナーとの整合のためのワーキンググループ活動

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

遠隔ICU委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

- ① 本邦における遠隔ICUのあり方の明確化
- ② 令和6年度保険収載に向けた情報・エビデンスの収集と整理
- ③ 遠隔ICUの設置と運用に関する指針の改訂版の公表

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 定期的な委員会開催による課題および情報共有
遠隔ICUの普及に際しての課題や展望を共有する。（各地域で導入に際した課題について議論する。）
2. NPO法人ICONとの連携によるデータ標準化に関する検討
生体情報モニタに加えて、人工呼吸器などの医療機器のデータ標準化に関する検討を行う。
AMED 医工連携・人工知能実装事業により、生体情報モニタデータからのデータ取得並びにリアルタイムでのデータ表示を行う。
その際に使用する生体情報のパラメータについて整理を行う。
3. 保険収載に向けたエビデンスの構築
保険要望申請に繋がるエビデンスを集積する事を検討していく。
遠隔ICUに関してのエビデンス収集について各施設からのデータを収集する。
(横浜市立大学、昭和大学、自治さいたま医療センター、千葉大学)
AMEDの事業の一環としても全国向けのアンケート調査を行い、遠隔ICUの普及のニーズに繋がる実態把握を行う。
4. 関連学術集会における普及および協調のための学術活動
遠隔医療学会における認定制度における履修科目として遠隔ICUの項目に関する検討
日本集中治療医学会 第7回関東甲信越支部学術集会 「Tele-ICUにCEがどのように関与すべきか」
日本集中治療医学会 第7回 東北支部学術集会
TSCCM 20230706-08. Innovation during pandemic area 「Tele-ICU」
5. 遠隔ICU設置と運用に関するガイドライン作成
2021年4月に公表した遠隔ICU設置と運用に関する指針の改訂作業を進めている。2023年中にパブリックコメントを経て、公表を行う。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3～4回

ICU機能評価委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

- 1.集中治療専門医研修認定施設の機能評価を実施する
- 2.JIPAD事業を推進する
- 3.診療の質指標を開発する

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 集中治療専門医研修認定施設の機能評価
 - ・全ての専門医研修認定施設を対象に、年毎の施設調査を実施
 - ・調査の回答回収率100%かつ精度の高い調査を行い、報告書作成
 - ・認定施設の現状把握・機能評価を行い、学会および学会会員に情報開示・共有を行う
 - ・日本集中治療医学会の基盤システム、専門医制度審査委員会データベースおよびJIPADとの一元化を図る
2. JIPAD事業
 - ・NPO法人ICONと協力して、より精度の高いデータベースをめざす。
 - ・今年度中に東京大学を代表研究施設とする新しい制度に則った一括倫理申請を進める。DPC案件についても別途一括申請を行っていく。
 - ・JIPAD側にすべての専門医研修施設およびその予備軍となる施設の情報を網羅したので、今後は専門医制度委員会および基盤システム側と協力して専門医取得に関してデジタル化を進めていく。
 - ・2022年度より開始したJIPADを利用した機能評価調査を充実させていく。
 - ・学会50周年にあわせてJIPADを宣伝すべくリーフレットを作成する。
- 3.診療の質指標開発
 - ・JIPAD参加施設においてDPCデータを収集し、QI測定を実施する。
 - ・診療の質開発ワーキンググループをJIPAD事業ワーキンググループに統合して事業の継続を図る。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

災害時の集中治療検討委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

災害・テロ・新興感染症パンデミックなど、平常時の医療状況が崩壊するような危機的状況において、日本の集中治療室（ICU）の安全な運用・機能維持に関する方策を検討し、体制整備する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1) 災害時におけるリバーストリアージの考え方および指針作成
 - ・災害時集中治療に関連したリバーストリアージは重要なテーマである
（どの患者をICU以外で治療するか？限られた医療資源を誰に提供するか？）
 - ・災害時（医療資源枯渇時）のICUにおける倫理的課題に対する指針を作成する
 - ・倫理委員会との協同を検討
- 2) 非常時におけるICUエスカレーションの方法・手順に関する指針作成
 - ・災害時の集中治療の在り方においてICUエスカレーションが重要である。
 - ・本課題に対し、行政等と協力して指針を作成する。
- 3) 「災害時の集中治療室 日頃の準備から発災後まで -ICU対応ガイドンス」の英語版作成
 - ・2020度発行した上記書籍を英訳して、国際発信する。
- 4) 新興・再興感染症に関する情報提供
 - ・新興・再興感染症が発生した際に 迅速に情報収集して、学会員向けに情報提供する。
- 5) 医療安全調査機構
 - ・医療安全調査機構の協力委員会として、機構に協力する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

臓器提供・臓器移植検討委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

- 1 多職種からなる臓器移植コーディネーターチームを養成するコース（仮称）を開発し、地域で臓器移植が発生した際に対応できる体制を整備する。
- 2 「臓器提供を見据えた患者評価・管理と術中管理のためのマニュアル（厚生労働科学特別研究事業）」を普及させる。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1 臓器移植コーディネーターチーム養成コース（仮称）の開発を行う。
- 2 「臓器提供を見据えた患者評価・管理と術中管理のためのマニュアル」を普及させる手段を検討する。

Ⅲ. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

12回

PICS対策・生活の質改善検討委員会

Ⅰ. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

本年度は本委員会では以下の3つの活動目標の達成を目指す。

- 1) 委員会研究の英語論文化の加速と新規PICS臨床研究の創成
- 2) 国際学会におけるPICS研究の啓発活動
- 3) PICS対策の保険収載に向けた活動の推進

Ⅱ. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1) 委員会研究の英語論文化の加速と新規PICS臨床研究の創成

現在進行中の委員会研究の論文化を推進し、本年度で5つの新規英語論文の受理を目指す。具体的には、現在本委員会で実施している1) J-PICS database研究1本、2) PICS-COVID研究1本、3) JRELIFE研究1本、4) JPICS-p study研究、の5つである。これらの研究の多くはデータ収集が完了し、執筆課程に進んでいるため、さらに論文原稿をブラッシュアップし、本年度中のアクセプトを目指す。

また臨床心理士の介入が家族のPICSに与える影響など、本委員会には新規臨床研究のつしーずがいくつか存在する。今年度はPICS研究の経験がある5名の学会員が本委員会WGメンバーに加入した。このため、各研究チーム体制を整備し、いくつかの研究シーズを論文化につなげるシステムづくりも行いたい。

- 2) 国際学会におけるPICS研究の啓発活動

本年度はこれまでの本委員会のPICS研究を国際的にアピールし、8つの国際学会での発表を目指していきたい。2023年4月の韓国集中治療学会で5演題、6月の米国ショック学会で3演題発表予定である。コロナ禍も落ち着いた現在、今後は本邦でのPICS研究を海外の集中治療医や研究者にも認知してもらえるような啓発活動を海外でも展開していきたい。

- 3) PICS対策の保険収載に向けた活動の推進

1) 2) の研究成果と活動実績もとに、PICS対策の保険収載に向けた活動も推進していきたい。昨年度はICU退室後のfollow up、早期離床リハ加算・早期栄養介入管理加算の増点と算定期間延長、ICUで算定するせん妄ハイリスク患者ケア加算増点の3点について内保連に提案意向書を提出し承認を得た。今後もPICS委員会の研究成果を用いてPICS対策の保険収載に向けた活動を展開していきたい。

Ⅲ. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

Rapid Response System検討委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

RRSとRRSレジストリの普及とその効果に関してレジストリーの研究推進を行う。

診療報酬が認められたあとの普及とRRSの効果を検討する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. RRS実施施設の把握を行う。（実態調査：JICRG承認済み）

2. RRSレジストリ参加施設の増加をする。さらにレジストリの充実をおこなう。このために、現在のレジストリのデータクリーニングを定期的に行い。全体のデータ発信をする。RRSレジストリをもとにした研究を推進する。研究受付を明示し、研究承認された班には結果の提出を促す。

3. RRSの普及活動としてRRS研究会とセミナー・ハンズオンの計画をする。

4. RRS合同委員会（日本集中治療医学会、日本臨床救急学会、日本循環器学会、医療の質・安全学会、日本小児救急医学会、医療安全全国共同行動、日本蘇生協議会）の開催

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

0回

ECMOプロジェクト委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

パンデミック収束後、ECMOネットで行われるCOVID-19へのECMO治療の学術的な総括への協力を行う。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

ECMO症例のデータの入力状況の確認、解析に協力する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

1回

統括教育委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

各職種のテキスト作成、認証制度、セミナー、試験、の進行状況、および会員の参加・学会貢献に対するクレジット・単位付与、著作権チェック、などの教育検討事項を横断的に情報交換する

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1 テキスト、認証制度、セミナー、試験

進行状況、今後の予定について情報交換する

2 クレジット

会員の参加・学会貢献に対するクレジット・単位付与について情報交換する

3 著作権チェック

著作権教育ワーキンググループにおいて著作権チェック体制などを検討し、学会指針の修正を行う。

4 イラスト、雛形

フリー素材バンクワーキンググループにおいて講演、テキストなどで学会として自由に使用できるイラスト、雛形を集積する

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

12回

セミナー管理・企画委員会 管理部門

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 委員会企画セミナーの開催時期の調整、委員会以外の企画セミナーの内容確認・審査

2. 学会員に教育教材と著作権についての教育講演の開催をおこなう（年 2回ナツレジワイヤ社）

3. オンデマンドスライドチェック体制の構築（暫定的ガイドは作成済み。本格的導入に関する方向性、タイムスケジュールの作成）

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1.開催セミナーの管理

集中治療医学会委員会が主催するセミナーの時期調整また委員会以外が主催するセミナーの審議

2.著作権について教育活動（教育講演の開催：日本著作権教育研究会）

著作権法入門、著作権と教材（教材作成時の留意点）、試験問題作成と著作権などについて、専門の講師による教育講演を開催
2回/年（1回 ¥55000：講演料 ナツレジワイヤ社）

3.スライドチェック、e-learningチェック

オンデマンド開催セミナーのスライド、e-learningの内容、テストなど（本格的導入に関する方向性、タイムスケジュールの作成）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

セミナー管理・企画委員会 企画部門

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

講義形式のセミナーとハンズオン形式のセミナーをバランス良く開催する

専門医機構における専門医制度に向けたe-learningの整備をおこなう

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1.リフレッシャーセミナーとMCCRCの安定的な開催

2.ハンズオンセミナーの再開（神経ハンズオン、RRS出動スタッフ養成コース、エコーハンズオンは再開）

3.e-learningの整備（2022年度内に10～15講義を実施）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

専門医制度・審査委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

集中治療専門医制度規則の規定に基づき、集中治療専門医ならびに集中治療専門医研修施設の認定およびその更新に関する業務を適切に行う

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 専門医新規申請者の書類審査/筆記試験監督と合否の判定
2. 専門医更新申請者の書類審査と合否の判定
3. 専門医研修施設新規申請施設の書類審査/実地審査と合否の判定
4. 専門医研修施設更新申請施設の書類審査と合否の判定
5. サブスペシャルティ領域制度を見据えた現行制度改定
6. 学会認定専門医更新単位に関するセミナー、ハンズオンの認定規則設定

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

8回

サブスペシャルティ専門研修プログラム作成委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

サブスペシャルティ専門医研修開始に向けての準備

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 研修施設（研修施設、協力施設）の募集・審査・認定
2. 専攻医受け入れに関する専門医機構との情報共有システム構築
3. 専門医研修管理システム・研修施設管理システムの作成（基盤システムと連携）
4. 機構認定専門医更新の整備基準作成
5. 専門医更新単位に関連する集中治療科領域講習認定（専門医制度・審査委員会と連携）
6. 地域連携研修枠に関する詳細の検討

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

12回

専門医試験委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

専門医の資質に値する知識を確認する上で必要な試験制度を整えることを目標に、専門医試験問題作成及び過去問題の掲示を行う。基盤システムの2期でeテストについて検討する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 2023年度専門医筆記試験問題作成

年7回の参集型委員会で問題を校閲し、優良問題を作成する。

試験終了後は問題を再検討し、2023年度専門医試験問題、正解として掲示する。

2. eテスト

基盤システムの2期開発に組み込んでもらうよう検討する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

7回

教育委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

集中治療専門医テキスト第4版の出版

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 集中治療専門医テキスト第4版の初稿脱稿を2023/5/31に延長

2. 出版業者は（株）GAKKENメディカル出版事業部に委託することに決定した。本年4月発刊の「集中治療医学」との連続性・整合性を期待している

3. 教育委員及び各章のリーダーによりpeer reviewを行う

4. 図表の新作を行い学会アーカイブとする

5. 2024/3/14の第51回学術集会の書籍コーナーへ出版物を並べることをデッドラインとしている

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回

超音波画像診断認定制度委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 認定制度にむけて規則細則制定を目指す（サブスペシャリティ制度などにより、セミナー単位が決定後に制定する）
2. CBT試験：試行および可能なら2023年度中に本番試験終了
3. 試験作成WGの設置と試験作成方法の確立、本番2ヶ月前までに試験作成

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 認定制度の周知、試行試験（CBT）（CBTが円滑におこなえるか、2023年9-11月で開催：受講者は委員会・元WGから15名程度、各自の希望に近い会場での開催とする。）
2. 試験作成WGの設置と試験問題作成手順の作成、本番試験作成（試験2ヶ月前）
3. 会議 Web4回（うち集合2回）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

学会認証看護師制度委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

集中治療認証看護師制度の第2回試験の適切な運営が行われる。

集中治療認証看護師認証試験の受験者数の安定的な確保がなされる。

次年度以降に向けた更新制度を含む制度および教育システムの見直しによる集中治療認証看護師制度の改善が行われる。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 2023年度4月 集中治療認証看護師試験の公募案内の検討 安定的な受験者確保に向けた広報活動の実施
2. 2023年度4-9月 集中治療認証看護師試験の試験問題の作問（不適切問題を減らすためのシステムの見直しおよび実施を含む）
3. 2023年度4-10月 第2回集中治療認証看護師試験の適切な運営に向けた検討
・実施フローの明確化、当日運営チェックリストの作成、当日運営方法の再検討等
3. 2023年度11月 第2回集中治療認証看護師試験
4. 2023年度12月 次年度に向けた教育システム（セミナー含む）の見直し
5. 2023年度1月 集中治療認証看護師(ICRN)または集中治療認証看護師－知識認証(ICRN-K)の認証
(適否の理事長への報告、認証書発行など)
6. 2023年度2-3月 次年度 試験準備
7. 随時：学会および支部会等の研修主催者より、本委員会へ提出された更新のための研修ポイントの認定作業
8. 次年度にむけた試験のあり方を他の認定制度の委員会と連携して検討を行う（CBT等より効率的な試験運営案の検討）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

Web会議11回、メール審議20回程度を予定（別途試験問題作問WG）

専門臨床工学技士制度委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

専門臨床工学技士の認定を継続して行う。被認定者の増加を図る。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 認定申請の受付と書類審査
2. 認定試験問題の作成および試験の実施
3. 認定審査および合格発表、認定証の交付

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

集中治療専門臨床工学技士試験委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

専門臨床工学技士認定試験問題作成の適正実施（不適切問題の回避、適切な難易度）

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 受験希望者の書類審査
2. 試験問題の作成とブラッシュアップ
3. 試験の実施
4. 不適切問題の抽出と合否判定
5. 認定証の発行

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回

集中治療理学療法士制度委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

集中治療理学療法士認定試験の試験問題を作成する。

集中治療理学療法士認定試験を実施する。

集中治療理学療法士の第1回認定を行う。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

集中治療理学療法士認定試験問題第1回締め切り（4月30日）

集中治療理学療法士認定試験問題第2回締め切り（5月31日）

集中治療理学療法士認定試験問題確認（7月30日）

集中治療理学療法士認定試験（10月28日）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回

集中治療看護委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 学会のビジョンに沿った看護師の活動計画と実行に向けた調整を図る。
2. 支部会と連携・調整を図り、看護師の臨床研究を支援するためのセミナーの企画や支部学術集会への看護師の参加を促すための取り組みを検討する。
3. 看護に関連する調査を企画し実施する。現在行っているワークエンゲージメントに関する調査を公表まで完了させる。
4. 集中治療看護師認証制度委員会との連携を図り制度構築に参画する。
5. 集中治療看護に関する施設調査について前年度からの見直しを行いながら継続し、看護の実態を把握する。
6. 看護師が関与する各種委員会と情報を共有し、必要に応じて相談に対応する。
7. 必要に応じて会員からの意見を収集し委員会活動に反映させる。
8. 診療報酬改定に係る看護関連の内容を検討する。
9. 看護師のeAPRINの受講を促す取り組みを検討する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 学会のビジョンに沿った看護師の活動の方向性に関して討議する。
2. 支部会代表者と定期的な情報交換の機会をもつ。中国・四国支部会学術集会において、看護師の研究を支援するためのセッションを企画する。
3. 支部会を通して、看護師の研究支援に関するニーズ調査を実施し、ニーズに沿った研究支援のあり方を検討する。
4. 集中治療に携わる看護師のワークエンゲージメントに関する調査を公表まで完成させる（調査は集中治療看護師活動調査WGと連携して行う）。
5. 集中治療看護に関する調査を企画できるよう委員会で検討する。
6. 集中治療看護師認証制度の構築に向けて当該委員会と情報を共有し、本委員会からも意見を述べるなど連携を図り制度構築に参画する。
7. 集中治療看護に関する施設調査の結果を学術集会の機会に公表する。前年度の施設調査の方法について見直しを行い、施設調査を継続して実施できる体制を構築し、看護の実態の把握に努める。
8. 診療報酬改定に向けた看護関連の内容を検討し案を提出する。
9. 看護師のeAPRINの受講率を上げるための取り組みを検討し実施する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

看護教育委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

- 1.学会における看護教育活動の方向性を定めること
- 2.集中治療に携わる看護師に必要なコンピテンシーを踏まえた教育を提供すること
- 3.教育的手法を用いて、集中治療における看護の質を向上させること

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1.学会における看護教育の活動の方向性に関して討議する。
- 2.集中治療に携わる看護師に必要なコンピテンシーを育成するための教育内容の検討
- 3.多職種を対象とした、下記の(web)セミナーを開催する。
 - ①ICUセミナー（初級）2回（6月、12月）
 - ②ICUセミナー（中級）2回（9月、3月）
 - ③意思決定支援プロセスセミナー ベーシック2回（6月、10月）、アドバンス1回（11月）
 - ④医療安全セミナー基礎編1回（8月）、応用編1回（10月）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

集中治療臨床工学委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

集中治療における臨床工学技士の配置状況、業務内容を調査し、適正配置を検討する。

集中治療専門臨床工学技士の更なる増加を目指すとともに、臨床工学技士の集中治療に関する知識、技術の更なる向上を目指す。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1.医師からのタスクシフトおよび改正臨床工学技士法の施行を踏まえた集中治療における臨床工学技士業務マニュアルの検討、作成
- 2.集中治療室における臨床工学技士の配置、業務実態調査の継続的な実施
- 3.若手医師、看護師、臨床工学技士等を対象とした臨床工学セミナーの開催
- 4.専門臨床工学技士の活用に関する検討
- 5.臨床工学技士集中治療テキスト改訂準備（第2版作成に向けた改訂項目の洗い出し）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

集中治療薬剤委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 集中治療専門薬剤師制度の設立：集中治療専門薬剤師制度の設立に向けて専門薬剤師制度TFと協同する。
2. 教育活動
 - （1）集中治療薬剤セミナー：年1回のセミナーを開催する。
 - （2）学術集会：集中治療薬剤委員会からの教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション等を企画し、提案する。
3. 集中治療薬剤師の質的向上
 - （1）集中治療室における薬剤師によるタスク・シフト/シェアとしてのPBPMの推進
 - （2）集中治療薬剤師の質的評価の検討

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 集中治療専門薬剤師制度の設立に向けて
集中治療認定（専門）薬剤師制度について、集中治療認定(専門)薬剤師制度タスクフォースと協同し、当学会理事会へ報告し、2024年度までの設立を目指す。日本臨床救急医学会の専門薬剤師制度との連携およびバランスを当学会理事会と討議しながら進めていく。
2. 集中治療における薬剤師の質の向上
日本集中治療医学会 集中治療に係るタスク・シフト/シェアに関する安全管理指針が今年度公開される予定だが、薬剤師としてはPBPMの推進が一つの肝である。そのため、集中治療室におけるPBPMの事例を収集していく。さらに、集中治療室の薬剤師の質を評価するために、QI: Quality Indicatorを議論していく。
3. 集中治療領域における薬剤の配合変化について
日本集中治療医学会ホームページおよび日本集中治療医学会雑誌への委員会報告として、「集中治療領域における注射剤投与ルート設計」の総説を投稿する。
4. 集中治療における薬剤の適正管理に関する教育
集中治療薬剤セミナーを年1回として企画し、運営する。集中治療薬剤セミナーを開催し、日本集中治療医学会からの薬剤の安全管理を考える機会を提供する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

集中治療PT・OT・ST委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 集中治療期リハビリテーションに関するセミナーの準備
2. 集中治療に携わる作業療法士の質向上を図る
3. 集中治療における言語聴覚士の認知を拡大する
4. 集中治療に携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の会員増加を図る

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 現在行われていない集中治療区リハビリテーションに関連したセミナー開催に向けた準備
 - ①今までは早期離床に特化したリハビリテーション関連のセミナーが行われていたが、早期離床が一般化した今、新たに違った目線でのセミナーを考案する
 - ②作業療法士、言語聴覚士の会員増も踏まえ、これら職種も参加でき内容を検討する
 - ③セミナーの項目や演者選定を行い、次年度開催する
2. 集中治療に携わる作業療法士のミニマムスタンダードを決定する
 - ①他国の集中治療における作業療法士の業務実態や活動内容に関する調査を行う
 - ②「集中治療室で働く作業療法士の臨床実践ミニマムスタンダード」の調査を行う
 - ③①②の調査を基に、「集中治療室で働く作業療法士の臨床実践ミニマムスタンダード」の仮項目を作成する。そして医師、看護師、理学療法士および作業療法士を対象に、合意形成を目的としたアンケート調査を行う
 - ④③に基づき「集中治療室で働く作業療法士の臨床実践ミニマムスタンダード」を決定し、学術集会等で発表する
3. 集中治療に携わる言語聴覚士の増加に向けて、日本言語聴覚士会と連携し、啓発活動を行う
4. 集中治療に携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の会員増加を図る
 - ①理学療法士：集中治療専門理学療法士制度試験の状況を踏まえ、さらなる会員獲得のための活動を検討
 - ②作業療法士：日本作業療法士協会、各都道府県士会、ICUで作業療法を実施している施設への広報活動を行う
 - ③言語聴覚士：日本言語聴覚士会と連携し、集中治療領域における言語聴覚士の調査、啓発活動を行う

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

循環器集中治療委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

全国で質の高い心血管集中治療が提供されることを推進すべく、集中治療医学と循環器病学双方を発展させ、循環器集中治療に関する啓発活動を行い、課題について協議する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 学術集会における循環器関連企画の立案と推進

以下の学術集会において循環器集中治療に関する企画を検討し、テーマの選定や座長・演者の推薦を行う。

- ① 第51回日本集中治療医学会学術集会（2024年3月）
- ② 第88回日本循環器学会学術集会（2024年3月）

2. 循環器集中治療に関する最新情報の提供

本会会員に対して集中治療に必要な循環器病学に関する最新情報を提供する。

- ① 書籍企画
心血管集中治療に必要な国際標準の知識と実践をまとめ、若手医師に役立つマニュアル書を作成する。
- ② 機関紙における情報提供
- ③ 循環器集中治療委員会ホームページにおける情報提供
循環器集中治療に関する国内外のトピックスや学会セッションなどリアルタイムの情報を提供する。

3. 循環器救急・集中治療の推進に関する課題の検討

日本循環器学会との共同活動として、循環器救急・集中治療をさらに発展させるための課題について検討を行う。

- ① CCU施設基準
- ② 特定集中治療管理料
- ③ メディカルコントロール体制

4. 循環器集中治療に関するトレーニングの開催と支援

- ① PCAS/ECPRセミナーの開催
- ② 日本循環器学会が開催しているPCASトレーニングセミナーの共催
- ③ メディカルスタッフ向けセミナーの企画

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

小児集中治療委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

2022年度の活動を継承し、小児集中治療にかかる諸問題について検討し、わが国の小児集中治療領域の臨床・教育・研究の向上に寄与する。日本小児集中治療連絡協議会（Japanese Association of Paediatric Intensive Care; JAPIC）の活動をより活性化して、日本小児科学会、日本小児麻酔学会・小児循環器学会小児循環器集中治療研究会・小児集中治療研究会等との連携を深める。集中治療専門医の基本領域となる日本小児科学会とは、2021年度から集中治療にかかる合同委員会を開催している。2023年度もこれを継承し、わが国の小児集中治療にかかる活動を一本化してゆくことを、今後の中心的課題としていきたい。さらに、看護師はじめ多職種関連の検討事項も活性化させてゆく方針である。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 日本小児集中治療連絡協議会（Japanese Association of Paediatric Intensive Care; JAPIC）

災害支援WGにくわえて2021年度から始まった新興再興感染症WG（旧称COVID-19WG）活動を継続する。診療報酬WGも活発に活動しており、診療報酬改定に向けての意見集約を行っている。また新たなJAPIC施設参加の呼びかけ、施設調査はじめ各種情報収集を実施している。基本的にはメール・電話・テレビ会議等で完結する方向であるが、活発な議論を促すためには顔を合わせることも重要と考え、対面での会議も検討する。施設調査継続と年報発行、協議会開催回数を年間複数回とする。国際多施設共同研究にかかる情報共有強化と参加強化、JIPAD加入促進も引き続き行う。関連他委員会とも積極的に情報共有を行う。

2. 当学会以外での小児集中治療関連活動との連携

日本小児麻酔学会、小児循環器学会小児循環器集中治療研究会、小児集中治療研究会との連携を進め、役割分担・連携方針について協議した。各組織からのオブザーバ招請を継続して委員会で協議し、連携を具体化した。さらに、日本小児科学会との連携をさらに強化する。日本小児科学会小児救急・集中治療委員会（旧称小児救急委員会）をカウンターパートとした当委員会との合同委員会を年2回開催し、保険診療関連・専門医関連のみならず、症例登録・疫学研究関連、医療倫理等、多方面にわたる協力関係の構築を議論した。この合同委員会は専門医制度の側面からも非常に重要であり、年2回開催を継続する。なお、合同委員会開催準備は両学会で持ち回りとなり、その開催経費を計上したい。

3. COVID-19関連

当委員会・JAPIC 新興再興感染症WGから、委員会報告の他に当学会ホームページ上での速報公開など、重要な情報を発信してきた。日本小児科学会とも密に情報共有しながら連携しており、今年度5類化の後も社会状況を注視しつつ柔軟に本活動を継続する。JAPIC以外の重症小児の把握が課題であり、解決に向けて取り組む。

4. 各種調査・他

職域背景調査、小児集中治療領域にかかる看護関連研究にかかる議論を行ってきた。2023年度をこれらを継続しつつ、さらに発展させる予定である。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

神経集中治療委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

神経集中治療の広報活動を継続的に行い、教育目標を明確にして神経集中治療に関わる知識を広める。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 神経集中治療に関する臨床研究(RCT)を行う。
2. 神経集中治療ガイドラインの策定を開始する。
3. 神経集中治療に関するセミナーを行う。
4. 神経集中治療教育コンテンツを作成する。
5. ホームページの充実、必要に応じて修正する。
6. 短期研修プログラムを構築する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

感染管理委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

感染管理に関する教育・啓発活動に加え、ICU領域における抗菌薬適正使用(AMS)、感染管理分野のサーベイランス・ネットワーク強化を行う

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1. WHO手指衛生キャンペーンへの学会としての参加：**2018年から学会として関与している左記グローバルキャンペーンに2023年度も参加する。具体的には、他学会・組織と共同で日本語訳ポスターの作成、展開を行う。(前年度と同様に)学会評議員に対しては完成したポスターを印刷して配布する。
- 2. 集中治療スタッフのための感染対策セミナーの実施：**ICU領域の感染予防管理に関する専門家を招き、講演やシンポジウムを交えたセミナー（半日）を実施する。過去のセミナーではCOVID-19対策や薬剤耐性問題など、時々のホットトピックを扱っており、2023年度も同様に最新の知見も踏まえたトピックを取り扱う。
- 3. WHO手指衛生セミナーの実施：**WHOが発表し、世界的にも認知されているガイドラインに則った手指衛生セミナーを継続的に実施する。2021・2022年度は環境感染学会、国立病院機構と3者共催となっており、2023年度も同様の組織横断的な取り組みを行う。
- 4. ICU領域の感染管理・AMS関連のサーベイランスネットワーク強化：**全国のICUにおける医療関連感染症の発生率や抗菌薬の使用状況といった感染予防管理上重要な情報は、未だに代表性をもったデータとして継続的に算出できていない。ICUにおける感染予防管理の取り組み強化、情報の見える化は、新興・再興感染症といった危機管理の観点からも重要な事項であり、既存のサーベイランスとの連携模索、JIPADの利活用など、学会通じた取り組みを検討していく。
- 5. ICD講習会の企画・運営：**例年、集中治療医学会学術集会におけるICD講習会を実施している。引き続き、企画・運営を行う。
- 6. 環境感染学会との共催シンポジウム開催：**新たな取り組みとして、2023年度は環境感染学会学術開催時に、VAP対策など集中治療領域と関連の深いトピックに関するシンポジウムを開催すべく、企画・運営を行う。
- 7. 学会関連研究：**これまで、DIANA, EUROBACT, REMAP-CAPなど複数の国際共同研究に関わってきた。引き続き、JSICMにとって意義の深い感染症・感染管理系の研究の情報収集・実施に関わる。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

Global Sepsis Alliance委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

医療従事者の「敗血症」の理解を促進するとともに、一般の市民にも「敗血症」の情報を提供する。予防や早期発見など、市民の方がご自身にもできることがあることを伝える。敗血症対策を政策に反映する上では、日本の疫学データが必要であり、こちらは日本敗血症連盟（Japan Sepsis Alliance; JaSA）を構成している3学会（当学会、日本救急医学会、日本感染症学会）が協力して行う。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1. 敗血症セミナー（医療従事者への知識の提供）**：医療従事者の敗血症への理解を促進するために、セミナーを3回開催する。3回の内訳は、当学会主催（2回目、9月の世界敗血症デーの時期に合わせる）、日本救急医学会主催（1回目）、日本感染症学会主催（3回目）とする。開催費用負担は、それぞれの主催学会とする。セミナーは、当面はウェブ形式での開催を考え、対面でのセミナーが可能になれば、対面に移行する。
- 2. 敗血症ウェブサイトの充実**：一般市民への敗血症の情報伝達の手段として、「敗血症.com」を作成し、運営している。市民が興味を持ってこのサイトを見てもらえるように、動画を掲載し、敗血症をイメージしやすい構成となるよう工夫している。このウェブサイトをさらに充実させる。さらに、ウェブサイトのデザインを魅力的なものに改変し、また、コンテンツの再編成をして、内容をアップデートする。
- 3. 世界敗血症デー関連イベント（一般市民の啓発）**：9月13日の世界敗血症デーに合わせて、イベントを開催する。昨年度は、コロナ禍で、ウェブで開催される世界敗血症デー10周年記念式典を宣伝した。今年度は、ウェブでの市民公開講座を開催することを検討する。同時に、メディアへの連絡を行い、そのメディアでも敗血症と取り上げてもらうことにより、さらなる情報発信を市民に向けて行う。
- 4. JaSA加盟3学会の学術集会での敗血症企画の実施**：それぞれの学会の学術集会（日本集中治療医学会 3月、日本感染症学会4月、日本救急医学会11月）で敗血症に関する企画を立案・実行する。また、可能であれば、それぞれの学術集会時に敗血症に焦点を当てた市民公開講座を開催する。
- 5. 敗血症診療ガイドラインの普及支援**：2020年に日本版敗血症診療ガイドライン改訂版が完成したことにより、敗血症セミナーなどで、このガイドラインの内容を医療従事者に知らせるなど、ガイドラインの普及支援を行う。
- 6. 敗血症の疫学研究**：敗血症対策を政策に反映させるためには、日本の敗血症疫学のデータが不可欠である。Disease-Procedure Combination (DPC) データベースを用いてこれを明らかにする。
- 7. 海外の敗血症に取り組む団体との連携**：海外のGlobal Sepsis Alliance (GSA) やAsia-Pacific Sepsis Alliance (APSA) と連携し、世界規模での敗血症対策に寄与する。また、海外での市民への敗血症啓発の方法などを参考にして、日本での情報発信を促進する。APSAでは、Global Burden of Diseasesのデータベースを用いたアジア/オセアニアに特化した研究を検討しており、こちらへ積極的に参加し、理事会および本学会会で情報を共有する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

GSA委員会会議2回（ウェブ）、JaSA会議（ウェブ3回）

ダイバーシティ委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

本学会が会員のダイバーシティを反映した活動を行うための制度設計を行う。

会員のダイバーシティの反映とは、男女共同参画、若手の登用、多職種の参画、地域の多様性の反映、子育て・介護など人生のさまざまなフェーズでも継続可能な環境・制度、が実現されていることである。

2023年度は2022年度の活動目標および計画を継続しながら、まずは現状把握のためのアンケート、若手や女性の活躍に繋げるためのHPでの情報発信から着手し、アンケートの結果をもとに、今後の活動方針へ繋げていく。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- ・ 2022年度に学術集会で報告した現在の学会活動についての統計を集中治療医学会雑誌で公表する。
- ・ ダイバーシティ実現へ向けての学会への提言
- ・ ダイバーシティ実現へ向けての現状や希望に関するアンケート
- ・ HPを通じてダイバーシティに関する情報発信
- ・ 学術集会で企画立案・運営（2022年度活動目標にあがっていた「近未来の若手登用に向けて学生や研修医など次世代の集中治療を担う

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

U35 プロジェクト委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

日本集中治療医学会に所属する若手学会員（35歳以下）により「U35」が組織された。集中治療に携わる多職種の若手スタッフ間のネットワーキングを促進し、若手の活発な活動を支援し、未来の集中治療の発展に貢献する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

第51回集中治療学術集会にて、複数の講演を行う。

第1回ニセコセミナーにて、U35メンバーによる企画を行う。

U35プロジェクト主催による勉強会、セミナーを複数回開催する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

12回(Web会議11回、参集会議1回)

JICRG・学会主導共同研究推進会議（理事会直轄組織）

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

学会主導研究パイロットとして、本会議が主体となった臨床研究を遂行するための体制整備を整えることが出来たので、次に実際の研究を遂行できる環境を整備する。その過程を通じて次年度以降の課題を抽出する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 神経集中治療に関するJICRG主体研究の遂行のため、審査結果を理事会に報告し、予算及び研究体制の支援を行う。
2. JICRGの規定を明確な文書として作成し、Endorsed studyの審査手順を確立したところで、これらを公表する。
3. JICRG WGの有効な活用について模索する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

CTG(Clinical Trial Group)委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

研究助成制度を実施し、会員による集中治療領域における新たなエビデンスの創出を支援する。また、従来通り多施設研究の研究協力施設拡大の支援を目的とした認定審査も積極的に行っていく。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. CTG委員会研究助成制度の運営を行う
2. CTG委員会応募研究の審査を行う

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

研究倫理委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

会員の「研究倫理」の啓発・普及などの教育活動を行う。

会員の研究活動の不正の疑義が生じた場合に審査を行う。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 学術集会における不正発表の疑義の事案にを調査し、レポートを作成する。会員の今後の研究倫理の参考となるようにデータを集積する。

2. 学術集会発表における一般社団法人公正研究推進協会（APRIN）のeラーニングプログラムの受講を必須要件とすることに向け、受講促進のための活動をする。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

英文機関誌編集委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

国内外の編集委員体制を強化したうえで、論文投稿のグローバル化を図り、アジアを拠点とする集中治療国際誌として、より一層の影響度の向上を図る

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 編集体制強化

迅速かつ的確な査読は質の高い論文掲載には必須であり、国内外の編集委員体制を強化してJournal of Intensive Careの影響度の増強を図る

2. Reviewer of the year表彰

質の高い論文掲載に必須な「的確な査読」を頂いた会員に敬意を表し、表彰する

3. Highly cited article表彰

Journal of Intensive CareのJournal Impact Factor向上に貢献した論文を投稿した会員に敬意を表し、表彰する

4. Journal of Intensive Care賞の推薦

会員の本機関誌への論文投稿を一層高めるため、優れた論文を優秀論文選考委員会に推薦する

5. 世界への広報

Social Mediaの活用など様々な手段を通じ、世界の集中治療領域の医療者研究者へのJournal of Intensive Careの認知度を高める

Springer Natureとの契約更新、2024年以降のAPC負担率検討

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

機関誌編集・用語委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 的確でスピーディーな編集作業を行う。

2. 学会員へ有益な機関誌を提供する。

3. 用語集の改定を実施する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- 1.オンライン邦文機関誌の発行：年7回
年6回定期隔月誌、年1回学術集会号（学術集会会長が編集）
企画特集号を発行する可能性あり；50周年記念誌については、50周年プロジェクトチームから予算計上していただくことに決定致しました。
- 2.機関紙編集・用語委員会（定例4年回・臨時随時）の開催 ※すべてWeb開催
- 3.日本集中治療医学会雑誌賞の推薦
- 4.Reviewer of the yearの表彰
- 5.用語集の改訂
- 6.チーフの編集作業量増大に対するタスクシフト
- 7.学術集会（支部学術集会を含む）からの座長推薦の制度設計
- 8.2024年からのeAPRIN必修化に対する制度準備

Ⅲ. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

優秀論文賞選考委員会

Ⅰ. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

1. 応募論文（優秀論文賞、奨励賞、日本集中治療医学会雑誌賞、Journal of Intensive Care賞）を厳密かつ慎重に審査し、4論文を委員会として理事会に推薦する。
2. 優秀論文賞、日本集中治療医学会雑誌賞、Journal of Intensive Care賞の中から最も優秀な臨床分野の研究論文を平澤博之記念賞（最優秀論文賞）を委員会として理事会に推薦する。

Ⅱ. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 優秀論文賞の推薦
2. 奨励賞の推薦
3. 日本集中治療医学会雑誌賞の推薦
4. Journal of Intensive Care賞の推薦
5. 平澤博之記念賞（最優秀論文賞）の推薦

Ⅲ. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

1回

集中治療を要する重症患者の広域搬送ガイドライン作成委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

ガイドラインの制定及び令和4年度診療報酬改定における集中治療を要する重症患者の救急搬送診療料の項目の追加を踏まえ、集中治療を要する患者の搬送に必要な知識・技術の習得及び練度維持を目標にしたスキル・セミナーを開催することを目標とし、講師養成、セミナーのカリキュラムの制定、コースの構築等を行うとともに、少なくとも1回以上のコース開催を実施する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

日本集中治療医学会学術集会におけるスキルセミナーの開催、他

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回以上

集中治療早期リハビリテーション委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

日本版重症患者リハビリテーション診療ガイドライン（J-ReCIP）作成

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 日本版重症患者リハビリテーション診療ガイドライン作成（パブコメ、外部評価を経て、2023年4月以降に公開予定）
2. 2023年より、随時日本語版、ダイジェスト版、英語版を出版する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回

日本版重症患者の栄養療法ガイドライン検討委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

日本版重症患者の栄養療法ガイドライン2024の作成を行い、その普及を行うこと
2023年度はCQと対応するWG確定の上でSRを遂行しガイドラインの内容を作成する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

2023年度はCQ決定と対応するSRを遂行し推奨文を含めたガイドラインの作成を完遂することを目標とする。CQ・FQ決定、PICO作成は2022年度に終了しており、年度内に以下実行する計画とする。

SR遂行

EtD、推奨文作成、委員会投票

日本語版、ダイジェスト版、英語版作成

全体の活動計画の概略は以下のとおりである。

1. 日本版重症患者の栄養療法ガイドライン2024（日本語本文、英語版、ダイジェスト版、アプリ版）の各媒体を作成し、完成させる。（集中治療専門医以外も含む幅広い層を対象とし、本邦の急性期栄養療法を向上させること、本邦から世界に発信する新しい急性期栄養療法ガイドラインを作成することを目的とする）
2. 急性期栄養療法に関する知見を整理し、わかりやすい栄養療法の考え方や戦略を提示することで本邦の急性期栄養療法のレベルを向上させ、本邦の急性期栄養療法の臨床・研究を推進する。
3. 日本版重症患者の栄養療法ガイドライン2024公開と普及を進める。
4. 次回ガイドライン作成準備を行う。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

100回以上

神経集中治療診療ガイドライン作成委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

他にガイドラインがない神経集中治療領域において、新規発表されている概念、診断・治療デバイスや薬剤に対して適切な方法論を用いて、実臨床の助けになる指針を提供する。

2024年8月公表を目指し、4領域（てんかん重積状態、くも膜下出血、ECPR、敗血症性脳障害）に、それぞれCQ3~4程度を設定予定。

当初の活動目標の前提として、下記を追記する

関連学会との調整を丁寧に行った上で、臨床医の多くが使用する神経ガイドラインを作成する。

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. 領域毎のワーキンググループメンバーを設定する（キーワード：若手、実績、神経集中治療の裾野を広げる）

2. ガイドライン作成の核となるメンバー向けに、MINDS講習会を開催し、ガイドライン作成のための方法論を身につける。

3. 2023年12月までに、CQの決定、PICOの決定、SR実施を予定。

当初の活動計画の前提として、下記の2つを追加する

- ・脳神経外科学会、脳卒中学会との調整を図る（脳外科学会からは委員派遣を依頼する）
- ・てんかん学会との調整を図る

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

日本版敗血症診療ガイドライン2024特別委員会

I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）

日本版敗血症診療ガイドライン2024を作成する。

SRの遂行、EtoDテーブル作成、推奨決定、GL本文執筆、パブコメ募集、草案完成までを2023年の目標とする

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

1. SRの遂行

2. EtoDテーブル作成

3. 推奨決定

4. GL本文執筆

5. パブコメ募集

6. GL草案完成

Ⅲ. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

8回

ARDS診療ガイドライン作成統括委員会**I. 活動目標（1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること）**

- ・ ARDS診療ガイドライン2026の作成計画立案
- ・ 必要人員・連携企業の募集
- ・ 予算立案

II. 活動計画（箇条書により、簡潔な説明を記入すること）

- ・ ARDS診療ガイドライン2026の作成方針策定
- ・ 協力メンバーの募集・人選
- ・ 必要企業の選定
- ・ 予算立案
- ・ クリニカル・クエスチオンの立案
- ・ 教育用資料の作成
- ・ 文献検索

Ⅲ. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回